

## 平成 26 年度 第 2 回 文化創造都市高岡推進懇話会 会議録

日 時：平成 26 年 11 月 20 日（木） 10：00～12：00

会 場：高岡市役所 803 会議室

出席者：【委員】駒澤 義則、晒谷 和子、武山 良三、能作 克治、川島 鋼

【当局】草壁次長、鶴谷課長

【事務局】鍋山室長、中嶋主査

### 1 開 会

### 2 審議事項

○文化創造都市高岡推進ビジョン（仮称）の策定について

・文化創造都市高岡推進ビジョン（仮称）構成〔案〕

事務局：— 資料説明 —

委員長：文化創造都市高岡推進ビジョン（仮称）の説明をいただいた。全体のスケジュールについて説明いただきたい。

事務局：パブリックコメントは 12 月 19 日より実施する予定である。本日いただいた意見を反映するとともに、本日ご欠席の委員の方にもメールなどでご案内し、今月中には委員の意見をまとめた。

委員長：大きな章立てはできているが、記載項目の詳細部分や細かい文言含め、忌憚のないご意見をいただければと思う。

委員：非常に無駄がなく、よく出来ている。ただし、あまり作り込みすぎると、訴える力が弱くなり、言いたいことが伝わりにくくなってしまう。やはり、「高岡ならではの感」があると良い。地場産業や伝統工芸はもちろんあるが、もっと違う視点での「ならではの感」を込めないと、他都市と差別化ができない。

書かれているだけのことを実施しようとする、かなりの財源が必要であり、時間もかかる。優先順位をつけないと、本当に実施できるのかと不安になってしまう。印刷物としては非常に良くできているが、どう進めていくのかが見えてこない。

以前、仕事でグアム観光局の方と話をする機会があった。グアムを訪れる観光客は、ピークの 4 分の 1 になっているそうだ。グアムは 1 回行ったら帰りたくなるそうだ。ハワイは 1 回行ったらずっといたくなる。それくらいの違いがあるというこ

とで、どうしたら良いかと相談された。皆さん即効性を求めている。一方このビジョンは漢方薬だと思う。じわじわと、下から上げていかないとなかなか伝わってこない。

また、アート&クラフトというのはコンパクトな表現だが、どうしてもアーツ&クラフト運動を想起させる。言葉を選びながら正確な伝え方をしていかないと、行政の方も担当が3年程度で代わってしまうため、引き継ぎの問題も発生してくる。一旦決めたら変えないということが必要だと思う。

委員： ビジョン素案はかなり完成しているという印象だ。ただし、確かに、掲載されている内容の全てを実施するのかという意見がある。

他委員がおっしゃったように、文化創造都市の取り組みには漢方薬的なところがある。クラフトという言葉がこれだけ施策に盛り込まれるようになるまでに、30年がかかった。

私も、高岡ならではのことに、いつも考えている。金沢の方がよく、高岡には瑞龍寺という国宝があるので羨ましいということをおっしゃる。現状では全く取り上げられていないが、勝興寺が国宝になれば、瑞龍寺との間にある市街への観光客の誘致がしやすくなり、高岡の文化的地位が上がると思う。「ならでは感」を出すためには、人間国宝も含めて国宝を輩出し、文化的に優れた町だとアピールすることが良いと思う。

委員： 確かにこのビジョン素案は、どこの市町村にも当てはまるという印象が拭えない。私が文化創造都市の取り組みの中で最も大事だと思うのは、もっと高岡市民に知ってもらおうということだ。知って誇りに思えば必ず外に伝える。市民に高岡の良さを認識してもらうための取り組みを、まず行うべきではないかと思う。

弊社は県外に何店舗か直営店を持っており、そこで製品の魅力を伝え、知ってもらってから、実際に現場に来てもらうようにしている。そして本物を見て良いと思ってもらえれば、今度は、訪れた人が伝える側になってくれる。そういうふうにならなっていくことが理想だと思う。

やはり一つ一つを実現していくことが全てにつながる。あまり色々な企画をたてすぎると、実行することが大変になると思う。じっくり構えて取り組むべきだ。

私は高岡以外から高岡に来た人なので、高岡の良さがわかる。しかし、案外、高岡に住んでいる人は高岡の良さをわかってない。地元の人に知ってもらう取り組みを重点的に行っていくと、高岡も富山も変わると思う。

委員： ビジョン素案は大変理解しやすいと思うが、実施する場合は、全町的かつ、市民を巻き込んで取り組む必要がある。民間企業であっても良いが、このビジョンを推

進するため旗振り役となる部隊が必要だと思う。私自身も実行していかなくてははいけないと思っているが、博物館だけでは進めていけないことだ。市として推進体制を継続していただかないと、実施していくことは難しいと思う。

事務局 : 全体を通じて表記でぶれているところがある。横文字なのか片仮名なのかという議論もある。表記については再度整理する。

委員 : 現在、2020年の東京オリンピックに向けて、「東京ならではの感」を演出しなくてはいけないという話になっている。東京は観光客が多く訪れるので、外国人観光客のほうが東京のことをよく知っている。外国人観光客に東京の良い点についてヒアリングすると、たいていは「親切だ」と回答するそうだ。言葉がわからなくても、道を訪ねれば、なんとか伝えようとする。そこで、現在、2020年までに5ヶ国語を言える50歳以上のボランティア3000人程度を募る計画がある。今から募集し、今から教育するそうだ。80歳のおばあちゃんが振り返って「can I help you?」と言うような国になれば、すごいと思う。それは演出の部類に入るが、そういった盛り込み方、面白みがあったら良いと思う。何よりもまず、人とのふれあいがあると思う。

また、発信していく上であまり色々な言葉を使わないほうが良い。吟味して伝えていかないと、何をどうして良いかわからなくなってしまう。

委員 : コンセプトはアート&クラフトシティ高岡で良いと思うので、これの意味合いを込めたメッセージ、コピーがあると良い。

委員長 : ここにまとめておられることは、我々が何年間も議論してきたことであり、それらを改めて整理していただいたという感想だ。ではこれを掲げて具体的に動き出すのかというと、疑問に思う。

具体的な一転がりを作っていく最重要ポイントは何なのかと考えると、やはり情報を伝える、知るということかと思う。例えば、現在、色々なプロジェクトに関わっておられる方がいるが、他のプロジェクトのことを全く知らないということが多い。そのため、イベントの日程を決める時も、自分たちの都合だけで日程を設定してしまう。高岡で行われるイベントの日程を網羅的に知ることができれば、他のイベントと重ならない日程設定にするという発想ができる。

つなげるということに関しても、個々の基本的な動きをしっかりと理解できているかどうか重要かと思う。市の推進室がまずコアとなり、庁内の情報は推進室に一元的に集まるという体制ができると良い。さらに民間で行われている取り組みに関する情報も集まってくるような作りこみをすれば良い。高岡全市的な、文化的なイベントを一元的に扱うよう拡大していくと、非常に良いかと思う。

その中で重要なのが推進体制だ。「アート&クラフトシティ推進委員会」と、「文化創造都市高岡市民会議」の位置づけ、役割分担が不明確。現在は懇話会とプロモーションチームが動いているが、それらから引き継いでいるのかも含めて、関係性をはっきりしていただきたい。会議として新たにメンバー構成していくというよりも、連携していくような体制づくりが求められているのかと思う。また、それらの組織が決めたことが、どのくらいの力を持つのかについても知りたい。市のコアな部分とつながって、意見を具体的に展開していけるのかなど、確認が必要だ。

現在のビジョン素案は、総合的なメニューの中で、強いメッセージや具体的な提案がないため、漠然としてしまっている。高岡ならではの、できるポイントを出してもらえれば良いと思う。

高岡では公民館活動が非常に活発に行われている。また、伝産など色々な団体のネットワークが力を持っており、それぞれ活動力もある。私は新たに委員会などを作るのは反対だ。既存の会がどうやったらつながるかということを徹底的に考えるほうが良いと思う。各団体の委員長もしくは幹部には情報が常に流れていくだけでも、ずいぶん連携することにつながると思う。

委員： 昨年も同様の議論がなされていた。色々な点があるからまとめようという話だったかと思う。高岡では色々なことに取り組まれているが、どうやってつながっているかわからない。点を面にするというのを考えたほうが良い。同じような取り組みをバラバラに行っている人もいるので、精査していけば良いと思う。

委員長： 以前まちなかで市役所の方にたまたまで会ったところ、獅子舞の競技会に行くのだとおっしゃっていた。本人が踊られるそうだ。カッコいいと思った。また、金屋町の人は東京などに行った際、弥栄節を一節踊られたりする。とてもカッコいいなと思う。そういったことが文化力なのだと思う。取ってつけたものではなく、根付いているものがしっかりとこの地域から発信されていくことが重要なポイントかと思う。

内容について、「文化事業・イベントのリデザイン」は素晴らしいと思う。また、「文化芸術に触れる機会の創出」とあるが、私も市民が参加する仕掛けが大事だと思う。文化イベントを行う際、企業や大きな工場の職員などに家族ぐるみで参加していただくような仕組みができないか。また、例えばマラソンをやっている人の団体力は大規模であり、絵画展をやるよりもはるかに多くの人が自然に集まる。そういうネットワークと文化イベントが交流すれば良い。スポーツ団体とすれば新たな領域が広がるし、参加メンバーが喜んでくれれば、自分たちの事業としても計上できる。それぞれの組織がお互いに補完するような仕組みが必要かと思う。

また、ものづくりデザイン科もすばらしい取り組みだと思う。すでに10年近く経つ。芸文ギャラリーでキッズワークショップを行っているが、参加した当時小学生だった子が大学受験をする年齢になり、富山大学芸術学部を受けたいと言っている。やはり効果があると思う。継続的な、高岡ならではの取り組みとしてぜひ続けていただきたい。

「新たな発想を生み出す創造空間 創造の場の創出」について、具体的な内容が続いて書かれているが、この内容は、場というよりも人のネットワーク作りだ。つなげる話としては戦略3があるので、ここでは場に特化して書いたほうが良いのではないか。さらに、クラフトとアートの二つの場にわけているが、いわゆる空間としての場の部分と、それを支援するような体制と、創造の場に関しても違う観点がある。それについて言及すれば良いと思う。

富山大学芸術学部については、クリエイティブな大学が町にあるということがすごく大きい戦力だと思っている。工場と大学が交流の場だと思う。新たに工房を作るという話もあるが、大学に来ていただければ公開講座もでき、設備も整っている。そういう観点でもっと活用頂きたいと思う。

また、情報というものは待っていても集まらないので、御用聞きしていただきたい。イベントをされている方はすごく忙しくてなかなか次の情報を出すというのは難しい。去年の実績や、ネットワーク、噂などで、御用聞きするような体制づくりが求められると思う。メディアとリンクしても良いと思う。

アート&クラフトシティというコンセプトは良いと思うが、観点としては、「工芸」という言葉も大事だと思う。現在は、日本からどんどん世界に対して発信している。要するに、今までのクラフトに当てはまらないレベルのものも含めて、日本のものづくりの幅が評価されている。そのキーワードとして「工芸」という言葉が外国でも使われるようになってきている。「かわいい」という言葉は今や世界語になっている。一地方都市の文化政策として捉えるだけではなく、もう少し全国的、世界的な観点で発信していくというような大風呂敷を広げても良いのではないか。

「工芸を高岡から発信するために、我々はこういうことをやっていきたい」といったロジックがあったほうが良い。表紙にも、「こういったことをやりたい」という目標を書いたほうが良いのではないか。

委員長 : 見たら夢を感じるような冊子になると良い。

委員 : 「高岡ドリーム」とか、「高岡プライド」といったコピーがあったほうが良いのかなと思う。

委員： 工芸学校が日本で最初にできたのが高岡と高松だ。銅器の間屋が工芸高校に来て、生徒の作品の払い下げを求めたという記述もある。英語に訳せない「工芸」があるように、「工芸」というワードを高岡から広めていくというのも、特徴があって良いかなと思う。

委員長： オリンピックなどで外国の方が来られた時も、「工芸の里高岡」と言ったら人が訪れるかもしれない。

委員： 冊子だと全部読むのが大変だ。ビジョンを1枚のポスターにできたら良いと思う。文化創造都市高岡推進ビジョン曼荼羅というポスターにして、ビジュアル化し、そのポスターが町のいたるところにあれば面白い。そんな市町村はあまりない。

委員長： 最近、職人の横顔を写真におさめた資料も作られているようだが、職人の横顔は非常に魅力的だ。色々な職人の横顔の写真と、文化創造都市高岡の工芸が表だって出てくると、それだけでインパクトがある。

いくつか意見が出た。事務局の方から個別に返答はできないと思うが、総体的に何かコメントがあればお願いします。

事務局： ビジョンということで、将来像を示すために網羅的になってしまったところはあるかと思う。ただし、バラバラに話されていたことを一箇所にとまとめたという点では意味があると思う。

今後は、どういうふうに優先順位を付けてやっていくかが大事かと思う。委員からもご指摘があったが、特に市として何をやっていくかということ考えた際、裾野を広げるための、知るという観点での活動が重要だと思う。一方、外向けにアピールしていくために、先進的でクールな部分を取り上げて議論したいという思いもある。裾野を広げるための取り組みと、外向けにアピールするための取り組みと、実際の推進体制など、今後、どういう順番で取り組んでいくかも含めて、もう一工夫がいるのかと思う。

委員長： 推進体制の骨格についてだけでも触れることができれば、ずいぶん違うと思う。期待感を抱いていただけるような体制を盛り込まないといけない。

委員： 大阪は東南アジア系の観光客が多い。大阪の観光案内所は以前までは大阪市内だけの案内をしていたが、それでは大阪を拠点にどこかに行きたいという人の要望に応えられない。そこで現在では、大阪だけではなく、福井までを含めた関西の案内をしている。広域の中で情報提供をしないと、観光案内施設を作っても利用されな

い。高岡でも観光客案内所を作ろうとしているが、高岡のことだけを案内しても意味がない。

委員長： 直島などを見ているとわかるが、外国の方は、日本人でもなかなか二の足を踏むような辺鄙な場所にも行く。しっかりした日本が感じられる場所であれば足を運ぶのだろう。さらに1ヶ月近くの長期滞在をする場合も多い。

委員長： 外国人客数データに関するニュースが発表されていたが、今後、まだまだ倍増すると思う。エンジンになるのは地方都市だ。もっと発信していくスタンスがあっても良いと思う。外から人が訪れると、市民の士気も高まると思う。

委員： 外国の人の感覚では、東京と高岡は近い。新幹線であれば2時間で高岡に着くので、すぐそこという感じだと思う。

外国の人に高岡に入ってもらい、ここが面白いという場所をどんどんピックアップしてもらってPRしたほうが手取り早いと思う。海外で自社製品を買ってもらうためには、現地の人にデザインしてもらおうと売れる。特に地方はそういう仕掛けが必要だと思う。

委員長： これほど資源が豊かなところは、他地域にはないと思う。

委員： やはり国宝があれば良いのだと思う。高岡市内で大型観光バスを見かけるようになったのは、瑞龍寺が国宝指定を受けてからだ。国宝は、旅行代理店がまずプランニングする際の取っ掛かりとなる。さらに掘り下げていくと産業があるという仕掛けができる。勝興寺は本当の仕事をしているところであり、国宝認定を受ける資格はあると思う。

委員長： 事務局でフィードバックできるところはフィードバックしていただき、パブリックコメントに諮っていただく。よろしくお願いします。

### 3 その他

- ・今後のスケジュールについて

事務局： ― 今後のスケジュールについて説明 ―

### 4 閉会

以上